

◎司会進行 企画課長（会長決定まで）

1 開会

2 委嘱状交付

○委嘱状の机上配付について説明

3 市長挨拶

○開会にあたり、市長より挨拶

皆さん、おはようございます。

まずもって、北斗市地域公共交通活性化協議会のご案内を申しあげましたところ、大変お忙しい中ご参集いただき、誠にありがとうございました。

ご承知のとおり、全国各地で公共交通というのは市民にとっては欠かすことはできないものでございまして、特に北斗市のように東西南北広く地域が点在しているまちというのは、どうしても地域をまんべんなく公共交通でカバーするのは厳しい状況になっております。

しかしながら、少子高齢化とともに高齢者の方々が運転して事故を起こす事案というものが年々多くなってきてございます。

こういった方々が車を運転したくて運転するのではなくて、運転せざるを得ない状況にあるということでございますので、そういった方々にご不便をかけないようにするためにも、地域公共交通というもの、各地で例えばデマンド交通など様々な取り組みをしている地域もござい

ます。

私どもも、様々な視点で地域の皆さんの足をきちんと確保するという観点から、是非皆様がたから貴重なご意見をいただきたいと思っております。

当協議会においては、北海道運輸局函館運輸支局さんをはじめ、町内会長さん、関係機関、さらに学識経験者の先生方にも委員として務めていただいております。

皆様方の貴重なご意見を今後の北斗の公共交通に活かして参りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

※他の公務の都合により、市長退席

○事務局より委員紹介、配付資料説明

4 協議事項

(1) 北斗市地域公共交通活性化協議会（法定協議会）について

○企画課長から議案1～5ページに従って説明を行い、質疑等を受けた。

質疑等なし

(2) 会長及び副会長の選任について

○事務局提案により会長にを指名、会長により副会長を指名

◎司会進行 会長（会議終了まで）

(3) 北斗市の公共交通の現状について

- 企画課長から議案7～8ページに従って説明を行い、質疑等を受けた。  
質疑等無し

(4) 市民アンケート結果（分析）について

- 企画課長から議案9～10ページ、別冊資料に従って説明を行い、質疑等を受けた。

発言者	発言内容
委員	<p>自分たちも地域に入り、お客様の生の声を聞いて、できるだけそれに向けて改善をしたいと思っている。</p> <p>このような形で市民の方の声をまとめていただいて、参考にしていきたいと思っているが、利用状況を見ると、開業して2年半になるわけだが、28年度は開業フィーバーということでそれなりの人が乗車したものの、29年度はやはり開業効果が薄れて、利用人数が少なくなってきた。</p> <p>我々としては、29年度の利用者数をベースにして、あとは30年、31年と利用者を増加させたいと思っているが、現実的にはやはり定期利用者が人口減に合わせ減ってきている。</p> <p>明るい話題としては、定期外の利用者が今年6、7、8月で去年よりも増加している。</p> <p>ただ、9月は残念ながら台風や地震などがあり、減少した。</p> <p>自治体の皆様から税金を投入していただいていることから、1円でも安く税金をかけないように、これからも努力して参りたいと思うので、皆様のご利用をよろしくお願ひしたい。</p>
委員	<p>高齢化とアンケート結果を踏まえて、将来は免許返上をしたいであるとか、デマンド交通、乗合タクシーを例とした、既存の交通以外の交通に期待をしているような結果も出ていることから、2点ほど交通事業者の皆さんのご感想をお聞きしたい。</p> <p>北斗市の高齢化の状況というのが資料編で示しているとおおり、全国的な傾向と同じように、2040年を境に老年人口が減少し、また少子化というものも続いていくことから、結果としてさらに人口が減少していくという推計となっている。</p> <p>少子化で子供が減少ということは、交通利用のウエイトを占める利用者が減少していく一方で、高齢者が増加し、アンケート結果にあるように、新たな交通に対する期待もある中で中長期的な人口構成の変動についてどのような考え、感想をお持ちか。</p> <p>新たな交通モードを用意したところで、利用者を取り合うというか、あまり利用が伸びない状況になっていくのか、それぞれの事業者に相乗効果があると積極的に見ておられるのか、その点を参考までにお聞きしてみたい。</p>

委員	<p>アンケートの結果を見ると、新たな交通モードをテーマとして議論されていく中で、あえて今後の公共交通に対する考えとして誘導的にデマンド交通に向けられたのかなと感じている。</p> <p>利用者の皆様はどのような交通を望んでいらっしゃるのかについてアンケート調査でいただいた上で、デマンド交通に対する意見を聞くべきではなかったのかと思う。</p> <p>会長が言われたとおり、アンケート結果は統計学的に素晴らしい数字で、無回答も気になるが、我々も新規路線開設や経路変更する際、アンケートを取るが、大概このようなアンケートでは、利用するという答えが多いので、より慎重になる。</p> <p>なぜなら、実際に利用者を見ると、まだまだマイカーご利用が多いからである。</p> <p>高齢化社会ということで、北斗市だけでなく当社が運行している道南一帯が同じ減少であるのは皆さんご存じのとおりであるが、特に檜山地域の一部において北斗市よりも高齢化率が高く推移している地域もある。</p> <p>特に北斗市については、過去に幹線につなぐ路線について社内協議したが利用者や既存の補助金をいただいている路線への影響を考慮した結果、幹線を活かした路線網づくりを行っている現状である。</p> <p>既存事業者、他の交通事業者との奪い合いになるのではということについては、交通基本法が策定された中では、まちづくりと一体になった交通網づくりということで、他の自治体ではコンサルを入れて、先進的事例やコンサルを入れた統計的な調査に基づくまちづくりと既存事業者の融合的な議論を行っているところもあることから、参考にさせていただきたい。</p>
委員	<p>アンケートの結果から見ても、乗ります、安ければ尚更良いということだと思うが、本社を利用されている方の声を聞くと、正直なところあまり切迫したような声は聞いていないのが現実。</p> <p>部分的な要望が聞くが、切羽詰まったところまではいっていないのではないだろうか。</p> <p>北斗市の場合は地形的に細長く、長い距離がある、幅が狭い、そしてバスの通っているところ、通っていないところがあることを考えると、どの地域が過疎化しているかということについても、様々な意見があがってくると思う。</p> <p>それをどのようにしていくか、全国的な例を北斗市に置き換えていろいろ考えてみたりしたのだが、結論が出ていないというか、北斗市として全国的な例をただ持つてくるのではなくて、北斗市として何かやれることはないのかなと考えている。</p>
委員	<p>アンケート結果からは、乗合タクシーというものを希望されているということだが、高齢者の方はおそらくタクシーと同じような使い勝手があればいいということではないか。</p> <p>それを受け、タクシー業者はどういう形で経営していくかということにもなっていく。</p> <p>戸口から戸口まで運行してもらいたいというのが、将来の皆さんの希望であることから、それに合う交通体制を作っていくのが必要ではないか。</p> <p>南北バスとかいさりび鉄道の利用実績を見ると、一月の利用者は大変多いのですが、一日平均するとかなり少ないことから、お金の無駄遣いをしているのではないかと感じている。</p>

委員	<p>まだこの地域では乗合タクシーの導入が早いのではないかという見方もできると思うが、全国的にハイタクは乗合タクシーを実施するという方向で動いている。</p> <p>ただ、この地域がそれに合うか合わないかというのは、これから皆さんで討議しながら進めていくのが大事なのではないか。</p> <p>自分も他地域での深夜乗合タクシーを運行しているが、使い方を間違えると、一般のハイタクに迷惑がかかるという部分もあるので、その兼ね合いをどのように考えていくのかということをご中議していただきたい。</p>
委員	<p>バス協会にも、貸切運行の業者、路線の業者など様々な業者がいて、地域に貢献するため、各社切磋琢磨、努力しているが、それぞれの地域にふさわしい交通体系というのは、同じものではなく、様々な形があると思う。</p> <p>皆様の中でお知恵をいただいて、より北斗市にふさわしい交通網が開ければいいのではないか。</p>
会長	<p>アンケート結果は統計学的には問題ないが、アンケートは常にいろんな問題をはらんでおり、非常に鋭いご指摘も頂戴した。</p>

(5) 先進自治体の事例について

○企画課長から議案11ページ、参考資料に従って説明を行い、質疑等を受けた。

委員	<p>先進自治体の事例について、補足説明させていただきたい。</p> <p>福島町のデマンドバスに関しては、回数券を昨年導入して、利用者が上向いているというケースであり、ジャンボタクシー車両も役場で購入して、タクシー会社に利用させている。</p> <p>利用者は毎年増加傾向にあるが、この業務を受けたタクシー会社はこれだけが要因とはいえないものの、貸し切りバスの事業を廃止しており、またタクシー事業の売り上げは下がっており、運転手が確保できないといった、色々と弊害がでてきているようだ。</p> <p>新十津川町も当初から好調ではあるのだけれども、個人的主観であるが、この乗合タクシーは隣町の砂川駅と滝川駅をつなぐ乗合バスになっており、新十津川駅とは接続しておらず、隣町の駅から接続するという乗合タクシーということになっている。</p> <p>伊達市の乗合タクシーは、商工会議所が中心に色々取り組みを行い、結局相乗りタクシーということで乗り合わせをメインとしたかったのだが、結果として1人で乗る方が多く、ただ安いタクシーではないかという話もあり、市も商工会議所も複数で乗ってもらおう夫婦割りや親子割りという施策も実施している。</p> <p>いずれにしても、乗合タクシーのいい部分だけ見ると失敗する例もあることから、そこをご注意いただきたい。</p>
委員	<p>先進自治体の事例が沢山出ているが、それがほとんど乗合タクシーのものであり、北斗市の新たな交通の方向性がもう出ているのではないかと勘違してしまう気がする。</p>

(6) 新たな公共交通の基本的な考え方について

○企画課長から議案12～14ページに従って説明を行い、検討に当たっての視点の項目ごとに質疑等を受けた。

・まちづくりを視野に入れた検討

委員	<p>近くを運行している公共交通としては、函館バスといさりび鉄道があり、この2つを利用して商店会まで足を運んでもらいたい。</p> <p>青空市という取り組みをしている中で、これをどのように公共交通とつなげていくのが課題の1つでもある。</p> <p>また、地域性を見ても、本町商店街のように新函館北斗駅に近いであるとか、七重浜商店会のように沢山人が集まっているという地域でもない。</p> <p>どういう取り組みをするにせよ、今後他の2つの商店会や公共交通の方々と話し合いを進めながら、どのように公共交通を利用して足を運んでもらえるのかを検討したい。</p> <p>バスを利用して来た方にクーポンを発行するといった、商店会独自の取り組みなども考えていきたい。</p>
委員	<p>公共交通を利用した方に対する還元策が足りないのではないかと。</p> <p>ポイント制度を利用するとか、いろんな面で利用者に対する還元策があれば、もう少し利用率が上がる気がする。</p>
委員	<p>地域的には国道に近く、恵まれている。</p> <p>一番の問題は、お年寄りの問題であるが、これをどのように解決していくのかということになると、やはりデマンド交通というものに頼るしかないのでは。</p>

・交通弱者等を優先した検討

委員	<p>鉄道、バス、タクシーそれぞれの利便性がありますので、私は大変いい交通機関だと思っている。</p> <p>マイナス面とすれば、鉄道、バスについては駅などから遠い人は使えないということ、またバスが時間通り来ないことがあるということ。</p> <p>タクシーは値段が高いものの、目的地から目的地まで行けるという利便性があり、どの交通機関もこのまま必要である。</p> <p>頼る人がいなければ自分の家族もタクシーで函館の病院まで通っていたことを考えると、身障者の方、高齢者の方には、既にある交通機関まで行けるデマンド方式の交通手段、また各商店会に行くまでの交通機関がそれぞれ必要なのではないかと。</p>
委員	<p>路線バスのバス停まで近くとも、足の悪くなった、自由に体が動かないという人は、そこまで行くことができない。</p> <p>そうなると、介護タクシーなどを利用してしまうというのが実情である。</p> <p>デマンド方式の交通があると、買い物ももっとできるのではないかと。</p> <p>あと、交通とは関係はないが、移動販売車が地域に来て販売するという施策も必要な気がする。</p> <p>路線バスの運賃が安いことは理解しているが、どうしてもすぐに行けるタクシーを利用している方をよく見かける。</p>
委員	<p>訪問のヘルパーをしている中で、病院への行き方がわからない、目的地にたどり着けないので教えてほしいと聞かれたことがある。</p> <p>そのような疑問を解消するため、商店街に行くための手段などをお知らせできるようにすると、高齢者の方も外出しやすくなるのではないかと。</p> <p>また、病院でも独自でバスを出している場合もあり、それを利用する方が多いと感じている。</p>

委員	<p>いさりび鉄道の乗客が減少していることについて、ネックになっているのは、駅のホームから直接列車に乗ることができないことだと考えている。</p> <p>ほとんどの駅で、階段やこ線橋を渡って向かい側のホームに降り、帰る時もまたそのような状態で戻ってこなければならない。</p> <p>もし解消していただけるなら、駅、鉄道を利用する人が増えるのではないかなと考えている。</p> <p>貨物鉄道を共用している線路なので、簡単なことではないかと思うが、この状態でどうすることもできないということであれば、やはり高齢者は鉄道を利用することは非常に難しくなっていくのだろうと思う。</p> <p>通院には各医療機関が送迎のバス、福祉施設からはデイサービスの送迎バス、それから買い物には移動販売車やスーパーの配達なども充実させている。</p>
委員	<p>交通弱者ということで、医療関係、通院が多いのだが、各医療機関が送迎バスで対応している。</p> <p>茂辺地というのは、市のはずれにあることから、送迎などで市の中央にいるよりも案外便利さ、恩恵を受けているのではないか。</p> <p>買い物も、惣菜関係の業者が地域に入っているが、不足しているのは生鮮食料品である。</p> <p>これを解消するためにもデマンドバスを利用するのが、一つの方法かと考えている。</p>
委員	<p>上磯駅の階段の上り下りが大変だという話があり、帰りが特に疲れているので困る。</p> <p>しかし、実際は他の交通機関により、いろいろな利用の仕方ができる。</p> <p>清川口駅で降りて、ハイヤーでも路線バスでも時間に合わせて利用することができるが、それをわからない方もいらっしゃる。</p> <p>ハイヤーもグループで利用すれば、路線バスと同じくらいの値段である。</p>

・既存の公共交通との共存・活かし方に考慮した検討

委員	<p>企業の戦略として競争している中で、買い物であれば民間会社の配達サービス、病院であれば無料の送迎バスといったものが、少なからず各交通業者も影響がある。</p> <p>地域での高齢化という話もあったが、事業運営する側も乗務員の高齢化、人手不足という問題もある。</p> <p>この問題に対しては、ITを活用した自動運転なども全国で新たな交通モードとして導入されているので、検討が必要ではないか。</p> <p>道南エリアでは、今金町においてデマンド交通を運行し、幹線バスに接続していただいている。</p> <p>また知内町さんでも大型を使ったデマンド交通の実証実験を実施しており、これについては結果や利用者の満足度がこれから検証される。</p> <p>函館バスの取り組みの中では、始発停留所より奥地にいる方のところまで迎えにいくという、一部デマンド的なことを実施しているが、経営の観点からは厳しい実情があり、1日お一人と固定客となっている。</p> <p>いずれにしても、幹線の方をメインに大きな国道を含めて、既存路線を運行しているところまで接続できるように検討していただきたい。</p>
委員	<p>バスのドライバーも高齢化が進んで、新しい人材が入ってこない、タクシー業界も函館市内で平均年齢が60歳を超えているという状況。</p> <p>公共交通を担う次の世代の確保が現状大変厳しい。</p> <p>いかにここに携わる者の生活を確保しながら、この地域に合ったものを検討していきたい。</p>

・持続可能な公共交通の検討

委員	<p>公共交通に限らず、持続可能という言葉がついて議論されるものの幅が広く、いろいろな問題について頭文字のようにしているのだが、事業者、住民の方々、地域それぞれの立場もあり、実情も違うということで、決定打というか、これだという答えはないと思う。</p> <p>皆さんが納得できるものというのは難しいと思うのだが、私の立場でどうこう言えないのが辛いところである。</p> <p>ただ、これまでのお話の中で、考え方の違いというのが少しずつ見えてきたのではないか。</p>
委員	<p>道路管理者の立場でお話させていただくと、冬期間のバスが鉄道に比べ定時間で動けないというのが、昔から今でも課題だと思う。</p> <p>当然路面状況に応じて、夏とは違うということをご理解いただかなければならず、積雪で路肩に雪がたまるということもある。</p> <p>少ない予算ではあるが、効率的に使いたいということで改善に向けて進めている。</p> <p>また、今の若者も車を持たない世代が増えていることから、公共交通機関を使わざるを得ない。</p> <p>都市部の中心に集まる公共交通機関はあると思うが、それを横断的につなぐものはないので、横のつながりが考えてみるべきではないか。</p>

・それぞれの地域にふさわしい公共交通の検討

委員	<p>まず、アンケートの調査について、郵送は無作為抽出であるが、対面式についてはどのような基準で選んだのかということについて記載がない。</p> <p>北斗市は高齢者の割合が約28%と参考資料に書かれていたのだが、これに対しアンケート回答者の約半数が高齢者となっており、これでは高齢者の意見が反映されてしまうのではないだろうか。</p> <p>次に、公共交通機関を使う目的として、通勤通学が最も多いということについて考えなければいけないのではないか。</p> <p>聞き取り調査の回答が半数近くあって、平日に実施されているということであると、学生やお勤めの方はあまり調査対象になっていないのではないか。</p> <p>そのため、改めて調査される際には、このような現状をもう少し考慮されて調査されるのが良いのではないか。</p> <p>さらに、交通弱者については、高齢者とか障がいのある方、妊婦、子供を連れの方、自家用車を利用しにくい方ということであれば、学生も含まれるのではないかと思う。</p> <p>自分が勤務している学校でも、北斗市から通学している学生がいるが、実際には寮に入っているということである。</p> <p>そうすると、いさりび鉄道から報告もあったが、定期通学の件数が減っているということであれば、その学生や勤めの方等に対しても考慮すべきではないか。</p> <p>つまり、交通弱者というものを高齢者、障がい者、妊婦などという定義だけでなく、どのように交通弱者と考えるのかということだと思う。</p> <p>学生であれば定路線でここまで来ればある程度利用できるという状況の人もいれば、高齢者や重度の障がいのある方であればドアツードアが必要なかもしれないということで、ある程度フレキシブルに、すべてにおいて必要なところがあるわけではなく、すべての人が必要ではないというのが、北斗市の状況だと思う。</p> <p>すこし外れた地域でも交通状況が充実しているであるとか、実はスポット的に交通状況が難しい地域、公共交通を使いたくても使いにくい状況だということもある。</p> <p>また、路線バスと電車等の公共交通機関でも抱えている問題が違うということもある。</p> <p>これには、問題だけじゃなくてメリットもあるので、それらを洗い出し、それを踏まえて何が必要か1つにして考えてしまうのではなく、それぞれに対して何ができるのか手間もかかるが考える必要がある。</p>
----	---

5 その他

本日の議事はここまでとなるが、その他ということで全体をとおして何かあればご意見を伺いたい。

何もなければ本日の会議を終了する。